

講義コード	1482690000
講義名称	経済学特講-経済学で考える社会問題　＜秋＞
科目英文名	Topics in Economics-Analysis of Social Issues with Economics
代表ナンバリングコード	ECON2400
単位数	2.0
時間割	秋学期: 火曜日 1 時限
講義開講時期	秋学期

担当教員

氏名
江川　 暁夫

授業形態	講義	実技	プレゼンテーション
	グループワーク	実務経験のある教員による授業① 日本の中央官庁で脆弱層政策を経験した教員による具体的な企画立案作業と実務の提案方法を教授する。	実務経験のある教員による授業② アジアでのODA（政府開発援助）を経験した教員による、発展途上国での貧困・格差・社会問題の解決方法の提案。

講義・演習概要	このコースは、経済理論が重要な社会問題の議論と解決にどのように、そしてどれだけ貢献できるかについて、基本的な理論を紹介し、それを受講学生が活用できるようになるよう設計されています。 授業構成は、（1）経済学の「使命」と福祉経済学の入門的な枠組みの理解、（2）経済学が取り扱える主要な社会問題としての貧困と所得格差に係る理論的考察と実践的なアプローチ、（3）巷でまことしやかに言われる「この社会問題は経済優先のせい」という主張に対する批判的な考察、となります。
学習（到達）目標	このコースの目的は、以下の2点です。 （1）「経済学vs社会問題」という構図を払しょくし、経済学の知識で社会発展についても考えていける力を、学生自身が持てるようになる。 （2）経済学の知識を持ちながら社会問題の解決方策に関心を持ち、近い将来に経済社会情勢の改善に積極的に関与できる人を養成するスタートラインに立てるようになる。

講義・演習計画

回	内容
第1回	イントロダクション、本講義の構成、「経済学の使命」
第2回	福祉経済学の理論とその応用範囲
第3回	貧困とは：定義、計測、日本及び世界での状況
第4回	格差とは：所得格差のみが格差ではない／貧困との違い
第5回	所得格差とは：一般的な計測の仕方と「格差問題」の存否
第6回	貧困と所得格差：その要因と実際に採られている解決策（先進国と途上国それぞれ）
第7回	教育の経済学①：なぜ教育が重要か、どのレベルの教育が重要なのか
第8回	教育の経済学②：格差を改善させる教育、格差を悪化させる教育
第9回	中間まとめ、アジアでの事例紹介
第10回	ソーシャル・キャピタル①：理論の理解
第11回	ソーシャル・キャピタル②：どのように「蓄積」していけばよいか
第12回	経済学による社会問題の解決と政治：開発協力の現場が「結局は政治なんだよ」と嘆く理由
第13回	ビジネス親和的環境の整備と社会開発①：ビジネスのしやすさ＝社会の破壊、なのか？
第14回	ビジネス親和的環境の整備と社会開発②：ブラック企業増加、労働条件悪化は規制緩和・国際化のせい？
第15回	まとめ

成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	25%
レポート	59%
その他	16%

成績評価の方法（コメント）	本講義の採点は、「その他点」では、毎回の授業に出席することを前提に、授業への参画の積極性（授業時間内にQ Rコードを通じて出題される質問に「考えて回答した」という行為）を考慮する。 「レポート」点は、授業後課題（8回以内）への取組（25点）、授業内の出題への回答内容（14点。正答のほか、考慮された独自の回答も加点）、レポート課題（20点）からなる。 「試験点」は、定期考査や授業内試験は予定されないが、「最終課題」として、学期末に出題（数日内に解答する）ものを指す。 なお、最終課題を提出しない場合は、「その他点」は、それまでの取組状況にかかわらず0点となる。
---------------	---

参考文献	クラス内で提示される。
事前および事後学習の指示（事前学習 30 時間 ・事後学習 30 時間）	講義科目であることから、事前学習よりも事後学習（復習）が重視される。基本的には授業後課題を通じて復習ができるように授業設計をしているが、以下には留意されたい。 （1）毎回の講義資料は事前に配布するので、その内容に「目を通す」こと。各回10～15分程度。 （2）レポート課題の設問のうち1問は、具体的な社会問題とその経済学を通じた解決策の提案に係るものとなるので、授業内容に関わる社会問題について、常に巷間の議論についてアンテナを張り、関連するを収集し、自らの考えを展開できるようにしてほしい（事前学習に相当）

【社会人の方へ】
 授業時間内に、Q Rコードを読み込んで解答する設問が出題されるので、スマートフォン等を毎回持参してください。

講義コード	14D2620000
講義名称	社会思想史Ⅱ　＜秋＞
科目英文名	History of Social Thought Ⅱ
代表ナンバリングコード	PHIL1410
単位数	2.0
時間割	秋学期: 火曜日 1 時限
講義開講時期	秋学期

担当教員

氏名
梅田　百合香

授業形態	講義
------	----

講義・演習概要	本講義では、西洋の近現代を代表する思想家の社会思想を分析することによって、宗教的・政治的・経済的自由と道徳との関係などを中心に、自由と社会秩序という問題の本質と現代的課題を考察する。
学習（到達）目標	受講者は、広く経済学に関わる思想史上の専門的知識を身につけることを目標とする。

講義・演習計画

回	内 容
第1回	講義ガイダンス ホッブズ（1）時代背景と課題
第2回	ホッブズ（2）なぜ人々は国家を形成するのか
第3回	第1回試験およびまとめ（ホッブズ）
第4回	ロック（1）時代背景と課題
第5回	ロック（2）社会契約論と政教分離
第6回	第2回試験およびまとめ（ロック）
第7回	ルソー（1）時代背景と課題
第8回	ルソー（2）なぜ社会契約が必要なのか
第9回	第3回試験およびまとめ（ルソー）
第10回	スミス（1）時代背景と課題
第11回	スミス（2）経済的自由主義の定式化
第12回	第4回試験およびまとめ（スミス）
第13回	ミル（1）時代背景と課題
第14回	ミル（2）個性と自由
第15回	第5回試験およびまとめ（ミル）

成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	100%
レポート	
その他	

成績評価の方法（コメント）	5回の小テストにおいて、学習目標に対応するテーマに関する選択式問題を出題する。 この5回のテストで、授業内容を踏まえた専門的な知識が身についているかどうかを評価する。
---------------	--

テキスト

	著者	タイトル	教科書購入区分	ISBN	出版社	備考
1.						テキストは使用しない

参考文献	坂本達哉『社会思想の歴史―マキアヴェリからロールズまで』名古屋大学出版会、2014年。 宇野重規『西洋政治思想史』有斐閣、2013年。 仲正昌樹編著『政治思想の知恵―マキャベリからサンデルまで』法律文化社、2013年。 山岡龍一『西洋政治理論の伝統』放送大学教育振興会、2009年。
事前および事後学習の指示（事前学習 30 時間 ・ 事後学習 30 時間）	各思想家について、参考文献の該当箇所を事前に読み、予習しておくこと。 講義中はノートを取り、授業後スライドの内容と照らし合わせてノートをまとめ直し、復習しておくこと。
備考(管理者用)	(旧：社会思想史) 02～10生読替（E・CBCC・文学部生のみ）

【社会人の方へ】
成績評価はないが、小テストを受けることができ、自分の理解力を確認することができる。授業では、レスポンスシートへの回答が求められる。

講義コード	1560330000
講義名称	国際法B　＜秋＞
科目英文名	International Law B
代表ナンバリングコード	0LAW2500
単位数	2.0
時間割	秋学期: 火曜日 1 時限
講義開講時期	秋学期

担当教員

氏名
軽部　恵子

授業形態	講義
------	----

講義・演習概要	この講義では、国際法の基礎を学びます。前半で国際法の最も重要な法源である条約を律する条約法の基礎を学びます。後半では、日本の進路に多大な影響を与えた条約を、歴史的背景や当時の国際情勢とともに学びます。 国際法がわかると、新聞やテレビの国際ニュースがよくわかるようになります。それは、国際法が国家の行動を規律する世界共通のルールだからです。 講義冒頭では、国内外のメディアのホームページを用いて、最新の時事問題を国際法の視点から解説します。受講生は、メディアを批判的に読み解く「メディア・リテラシー」を学んでください。
学習（到達）目標	①国際法、とくに条約法の基礎（重要な条約、判例を含む）について、歴史的事例をもとに修得する。 ②国際法が個人の生活に直結することを理解し、国際法の歴史的文書の今日的意義を考察する。 ③国際問題の理解に必要な一般教養、とくに歴史・地理・文化・宗教に関する基礎知識を獲得する。 ④メディア・リテラシーを身につける。

講義・演習計画

回	内 容
第1回	国際法の基本原則
第2回	条約（1）条約案の交渉　※この回から条約集を必ず持参してください。
第3回	条約（2）署名と採択
第4回	条約（3）批准
第5回	条約（4）効力発生
第6回	条約（5）無効と終了
第7回	条約（6）国内法との関係
第8回	日本と国際法（1）日米和親条約と日米修好通商条約
第9回	日本と国際法（2）パリ講和会議と国際連盟規約
第10回	日本と国際法（3）真珠湾攻撃と太平洋戦争
第11回	日本と国際法（4）終戦とサンフランシスコ平和条約
第12回	日本と国際法（5）日本国憲法と日米安保条約
第13回	日本と国際法（6）「唯一の被爆国」と核軍縮
第14回	日本と国際法（7）国連女性差別撤廃条約
第15回	まとめ、期末試験

成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	100%
レポート	0%
その他	0%

成績評価の方法 (コメント)	計 2 回の試験のみで成績評価を行います。出席は成績評価に全く関係ありません。成績が振るわなかった受講生のために、追加の試験やレポートを課すことは一切ありません。詳細は第 1 回授業資料を読んでください。
-------------------	--

テキスト

	著者	タイトル	教科書購入区分	ISBN	出版社	備考
1.		国際条約集2025	大学オンライン 販売	978-4641001626	有斐閣	

参考文献	加藤信行『ビジュアルテキスト国際法』第 3 版（有斐閣、2022年）、中谷和弘他『国際法』第 5 版（有斐閣、2024）、浅田正彦他『国際法』第 5 版（東信堂、2022）、大沼保昭『国際法』（ちくま新書、2018）、祝田秀全『知識ゼロからの戦争史入門』（幻冬舎、2020）、西谷修『ロジェ・カイヨワ 戦争論：文明という果てしない暴力』（NHK出版、2024）、田中久美子監修『理由がわかればもっと面白い！西洋絵画の教科書』（ナツメ社、2021）
事前および事後学習の指示 （事前学習 30 時間 ・事後学習 30 時間）	毎回の授業で指示される参考文献や参考URLをもとに、事前および事後学習をしてください。
その他備考（担当教員用）	- 教科書である条約集は第 2 回から毎回使います。試験問題の一部は、最新版の条約集を用いて解答する形式です。 - 条約集で採用する条約・宣言等は、毎年入れ替わっています。条約に入っている国のデータは、毎年更新されています。 - 国際法 B を受講する予定の人は、先に A を受講することを強く推奨します。 - 聖書とギリシア神話の基礎知識は、国際問題の理解に必須です。西洋絵画の名画の解説を読むと効率的に学べます。
キーワード	国際法、条約法、日本史、世界史、武力紛争、国際人道法、核軍縮
備考(管理者用)	(旧：国際法) 02～19E・SS・SW・B・L・J生読替

講義コード	16D1310000
講義名称	税法B　＜秋＞
科目英文名	Tax Law B
代表ナンバリングコード	0LAW2570
単位数	2.0
時間割	秋学期: 火曜日 1 時限
講義開講時期	秋学期

担当教員

氏名
浦東　久男

授業形態	講義
------	----

講義・演習概要	企業課税についての基本原則を理解する。国際税法の基礎的概念を理解する。法人税法の概要を講義により学んだ後、国際税法を学ぶ。
学習（到達）目標	・租税法律主義の内容と意義を理解する。 ・法人税法を学び、会社法を中心とする企業法と税法の関係を理解する。 ・国際税法の基礎的概念、考え方を学ぶことにより、国家の課税権のあり方を考える。 ・会計学、財政学、公共経済学を学んでいる学生は、税法・国際税法とそれらの科目の関連性を考える。

講義・演習計画

回	内 容
第1回	導入　授業計画の説明　わが国の税制を概観する ・税財政の状況 ・税法と他の科目（法分野）との関係 ・法人税の特徴 ・所得税との相違点 ・租税法の法源（法律・政令などの国内税法と租税条約） ・租税法の基本原則（租税法律主義）
第2回	租税法の解釈適用の基礎 企業課税の特徴 ・国税としての法人税と地方税としての法人事業税
第3回	法人税と所得税との関係　～法人段階の課税と株主段階の課税、二重課税論～
第4回	法人税法における法人の種類　～同族会社に対する課税～
第5回	法人税法と企業会計　～法人税法22条と企業会計原則～ 法人税法における益金　～受取配当、資産の評価益～
第6回	法人税法における損金（1）　～売上原価、減価償却など～
第7回	法人税法における損金（2）　～役員給与、交際費、寄付金～
第8回	国際課税（1）国家の課税管轄権について ・無制限納税義務者と制限納税義務者　～居住者と非居住者、内国法人と外国法人～ ・国内源泉所得に対する課税（その1）
第9回	国際課税（2）国外の納税者に対する課税 ・国内源泉所得に対する課税（その2） ・恒久的施設と課税所得の範囲
第10回	国際課税（3）国内の納税者に対する課税 ・国際的二重課税と外国税額控除
第11回	国際課税（4）外国の子会社に関する課税 ・受取配当益金不算入 ・外国子会社合算課税（タックスヘイブン税制）

第12回	国際課税（５）国内租税法と租税条約の関係 ・国内法と条約の関係 ・OECDモデル租税条約 ・日本が締結した租税条約について
第13回	国際課税（６）租税条約が定める課税 ・OECDモデル条約が定める各所得の課税
第14回	国際課税（７）移転価格税制と国際的租税回避 ・移転価格税制と独立企業間価格 ・タックスヘイブンと情報交換
第15回	まとめ

成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	
レポート	30%
その他	70%

成績評価の方法（コメント）	（１）M-Portを通じて実施する小テスト（３回程度実施予定） （２）レポート（その１）：次の課題について、1000字程度で説明しなさい。 課題「法人税法２２条２項が定める無償による役務の提供と収益認識」 提出期限：１１月の第３回目の授業日 （３）レポート（その２）：次の課題について、1000字程度で説明しなさい。 課題「内国法人と外国法人の区分の基準について」 提出期限：１月の第２回目の授業日 レポート（２回分）と（その他）をあわせて成績評価を行う。 提出期限は、２０２５年１０月中にM-portにおいて通知します。
---------------	--

テキスト

	著者	タイトル	教科書購入区分	ISBN	出版社	備考
１．	ハツ尾順一	図説・租税法ノート（第16訂版）	大学オンライン販売	978-4-433-73924-9	清文社	
２．	村井正編著	入門国際租税法（改訂版）	大学オンライン販売	978-4433738709	清文社	

参考文献	１ 岡村忠生・酒井貴子・田中昌国著『租税法〔第4版〕』（有斐閣） ２ 河本光博編著『図説日本の税制令和五年度版』（財経詳報社） ３ 木村浩之著『租税条約入門』（中央経済社） ４ 中里実・佐藤英明・増井良啓編『租税判例百選〔第7版〕』（有斐閣）
事前および事後学習の指示（事前学習 30 時間 ・事後学習 30 時間）	教科書によって、前回までの講義内容の復習をすること。授業中に出题される質問に対する解答を自分で考えて、自分のノートに記録すること。授業中に小テストを例題として実施するが、成績評価には含めない。
その他備考（担当教員用）	税法は、憲法、行政法、民法、会社法など基本的な分野で学んだことを基礎とする応用的な法律科目である。また、経営学、経済学など自分が所属する学部で学んでいる学問分野との関連性を考えて学んでほしい。国際税法については、授業に出席して講義を理解するとともに教科書により知識を整理して欲しい。
キーワード	法人税 法人税法 企業会計 国際課税 国際税法 租税条約
備考(管理者用)	（旧：税法Ⅱ）02～07生読替

講義コード	16D1420000
講義名称	人的資源管理論B　＜秋＞
科目英文名	Human Resource Management B
代表ナンバリングコード	BUSA3430
単位数	2.0
時間割	秋学期: 火曜日 1 時限
講義開講時期	秋学期

担当教員

氏名
三輪 卓己

授業形態	講義	実務経験のある教員による授業①
		企業の人事部スタッフ、ならびに組織人事の経営コンサルタントの実務経験を授業に反映させる。

講義・演習概要	講義のテーマとして、企業経営全体の中で人的資源管理の意義を考察し、今後の社会に適合した人的資源管理とはどのようなものであるかを探索することを掲げます。基礎編(A)に比べ、理論としての発展の経緯や経営全体との関わりの中での変遷等が重視されます。まず経営資源としてのヒトはどのように捉えられるのか、そのマネジメントである人的資源管理とは何であるかを理論的に理解するところからスタートします。そして日本企業において、人的資源管理はどのような特徴を持つと認識されるのか、どのような歴史的変遷があったのかを考察していきます。具体的な人的資源管理の仕組みの説明はもちろん、その意義や問題点について深く掘り下げていきます。その際、今後の社会において重要となる人材群（女性、国際人材、技術者等）やトピックス（知識労働や自律的キャリア開発）に焦点をあて、それを糸口にして将来に向けた深い考察を行いたいと思います。現在は日本企業の経営、人的資源管理の大きな転換期だといえます。知識社会の進展により、働く人々には今までと異なる能力や行動が求められ始めました。当然ながらそれに伴う人的資源管理の見直しも必要になってきます。こうした将来に向けての大きな変化を展望し、しっかりと対峙していける心的態度や思考能力を身につけることも、学部学生には大事になってきます。受講生の皆さんと活発な議論をしていきたいと思っています。
学習（到達）目標	人的資源管理論に関する基礎理論をしっかりと修得することと、現実社会への理解を深め、実践的応用力を高めることの二つを目標とします。論理的思考能力(特に課題発見力、創造力、論理的分析力、総合的判断力)、主体性の開発に主眼を置きます。

講義・演習計画

回	内容
第1回	人的資源管理とは何か（理論的特長とその発展過程） 人的資源管理論の発展過程とその背景にある社会の変化を説明したうえで、授業全体のスケジュールや、受講上の注意事項を伝達する。
第2回	長期雇用と遅い昇進（長期選抜） 日本的な昇進制度について、企業内特殊知識や知的熟練と関連づけて学習する。
第3回	日本企業の人事考課 日本の人事考課制度が日本企業の経営や組織特性とどのように関連しているか学習する。
第4回	作業組織設計と人的資源管理 日本企業に多くみられるチーム作業組織と人的資源管理の関わりについて学習する。
第5回	成果主義賃金 1990年代以降増加した成果主義賃金について、その実態や意義、問題点を学習する。
第6回	目標管理（MBO）とコンピテンシー 成果主義賃金とともに普及した目標管理等について、その実態や意義、問題点を学習する。
第7回	モチベーションと人的資源管理 モチベーション理論と人的資源管理の理論を関連付けながら、成果主義や年功主義の人的資源管理の再検討を行う。
第8回	女性労働者 女性労働者を積極的に活用するうえでの人的資源管理のポイント、日本企業が変わるべき点について学習する。
第9回	高年齢労働者 高齢者を積極的に活用するうえでの人的資源管理のポイント、日本企業が変わるべき点について学習する。
第10回	研究開発技術者 技術者等の専門職を積極的に活用するうえでの人的資源管理のポイント、日本企業が変わるべき点について学習する。

第11回	国際的人資源管理 駐在員や外国人を積極的に活用するうえでの人的資源管理のポイント、日本企業が変わるべき点について学習する
第12回	非正規労働者 非正規労働者を積極的に活用するうえでの人的資源管理のポイント、日本企業が変わるべき点について学習する。
第13回	キャリア開発 働く人のキャリア発達について、ライフサイクルやキャリア志向などの基本的概念を学ぶ。
第14回	知識・情報社会のキャリア これからの知識・情報社会におけるキャリアが工業化社会とどう異なるのかを学ぶ。
第15回	まとめ 全体を振り返り、ポイントの整理と今後に向けての展望を行う。

成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	
レポート	90%
その他	10%

成績評価の方法（コメント）	中間レポートと最終レポートを課す。 その他は授業中の発言や質問，ならびに授業後の質問メール，任意のミニレポートによって評価する。
---------------	---

テキスト

	著 者	タイトル	教科書購入区分	ISBN	出版社	備考
1.	奥林康司・上林憲雄・平野光俊編著	入門的人資源管理 第2版	大学オンライン販売	978-4-502-67360-3	中央経済社	

	第1回 (事前学習)テキスト第1章を読んで疑問点等をまとめておくこと (事後学習)配付する講義資料を見直して授業のポイントを確認すること 第2回 (事前学習)M-Portで指示する資料を見て疑問点等をまとめておくこと (事後学習)配付する講義資料を見直して授業のポイントを確認すること 第3回 (事前学習)テキスト第7章を読んで疑問点等をまとめておくこと (事後学習)配付する講義資料を見直して授業のポイントを確認すること 第4回 (事前学習)テキスト第3章を読んで疑問点等をまとめておくこと (事後学習)配付する講義資料を見直して授業のポイントを確認すること 第5回 (事前学習)テキスト第9章を読んで疑問点等をまとめておくこと (事後学習)配付する講義資料を見直して授業のポイントを確認すること 第6回 (事前学習)テキスト第7章を読んで疑問点等をまとめておくこと (事後学習)配付する講義資料を見直して授業のポイントを確認すること 第7回 (事前学習)テキスト第2章を読んで疑問点等をまとめておくこと (事後学習)配付する講義資料を見直して授業のポイントを確認すること 第8回 (事前学習)テキスト第13章を読んで疑問点等をまとめておくこと (事後学習)配付する講義資料を見直して授業のポイントを確認すること 第9回 (事前学習)テキスト第14章を読んで疑問点等をまとめておくこと (事後学習)配付する講義資料を見直して授業のポイントを確認すること 第10回 (事前学習)テキスト第16章を読んで疑問点等をまとめておくこと (事後学習)配付する講義資料を見直して授業のポイントを確認すること 第11回 (事前学習)テキスト第15章を読んで疑問点等をまとめておくこと (事後学習)配付する講義資料を見直して授業のポイントを確認すること 第12回 (事前学習)テキスト第12章を読んで疑問点等をまとめておくこと
事前および事後学習の指示（事前学習 30 時間 ・事後学習 30 時間）	

	(事後学習)配付する講義資料を見直して授業のポイントを確認すること 第13回～第15回 (事前学習)M-Portで指示する資料を見て疑問点等をまとめておくこと (事後学習)配付する講義資料を見直して授業のポイントを確認すること
キーワード	雇用管理，人事考課制度，賃金制度，キャリア開発，知識労働者
備考(管理者用)	(旧：経営労務論B) 08～09生読替☆ (旧：経営労務論) 02～07生読替

講義コード	17E0230000
講義名称	観光英語B　＜秋＞
科目英文名	English in Tuorism B
代表ナンバリングコード	0ENG2430
単位数	2.0
時間割	秋学期: 火曜日 1 時限
講義開講時期	秋学期

担当教員

氏名
平田　和彦

授業形態	講義
------	----

講義・演習概要	日本政府観光局(JNTO)によると、日本を訪れる外国人旅行者の数は年1000万人を超えている。このような社会情勢をふまえ、私たちは自国の文化・歴史などを習得し、それらを英語で紹介できるようにならなければならない。この授業では専門のテキストを使用し、これらに対しての造詣を深めていく。
学習（到達）目標	英語の学習を通し、日本の文化・歴史を国際社会にアピールできるようなることを目指す。

講義・演習計画

回	内 容
第1回	オリエンテーション &Chapter 6 Japan's Top Three Pottery Styles(1)
第2回	Chapter 6 Japan's Top Three Pottery Styles(2)
第3回	Chapter 6 Japan's Top Three Pottery Styles(3)
第4回	Chapter 7 Japan's Top Three Night Views(1)
第5回	Chapter 7 Japan's Top Three Night Views(2)
第6回	Chapter 7 Japan's Top Three Night Views(3)
第7回	Chapter 8 Japan's Top Three Famous Foods(1)
第8回	Chapter 8 Japan's Top Three Famous Foods(2)
第9回	Chapter 8 Japan's Top Three Famous Foods(3)
第10回	Chapter 9 Japan's Top Three Limestone Caves(1)
第11回	Chapter 9 Japan's Top Three Limestone Caves(2)
第12回	Chapter 9 Japan's Top Three Limestone Caves(3)
第13回	Chapter 10 Japan's Top Three Scenic Spots(1)
第14回	Chapter 10 Japan's Top Three Scenic Spots(2)
第15回	Chapter 10 Japan's Top Three Scenic Spots(3)

成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	40%
レポート	30%
その他	30%

成績評価の方法（コメント）	「その他」 ……授業への意欲的な参加
---------------	--------------------

テキスト

	著者	タイトル	教科書購入区分	ISBN	出版社	備考
1.	Toshiyuki Sakabe	Touring Japan in English	大学オンライン販売	978-4-523-17788-3	NAN'UN-DO	

参考文献	授業時に適宜紹介する。
事前および事後学習の指示（事前学習 30 時間 ・事後学習 30 時間）	必ず予習し、設問に答えておくこと。
備考(管理者用)	（旧：観光英語）08～17L生読替☆（旧：翻訳研究）02～07L生読替

【社会人の方へ】
質問等は授業の前後にうかがいます。

講義コード	1A10100000
講義名称	世界の市民-「貧しさ」を考える　＜秋＞
科目英文名	World　Citizen-Rethinking Poverty
代表ナンバリングコード	WDCZ1000
単位数	2.0
時間割	秋学期: 火曜日 1 時限
講義開講時期	秋学期

担当教員

氏名
森田　良成

授業形態	講義
------	----

講義・演習概要	われわれとは大きく異なる環境で暮らす人々の生活を事例に、「貧困」についての理解を深める。具体的には、ティモール島（インドネシア共和国/東ティモール民主共和国）を主に取り上げ、文化人類学の立場から議論を進める。桃山学院大学の建学理念「キリスト教精神に基づく人格の陶冶と世界の市民の養成」に基づいて、世界には自分とは大きく異なる様々な生活と人々の生き様があることを理解する。
学習（到達）目標	自分とは異なる文化を生きる人々に対する理解を深め、そのうえで自分が生きる文化と時代を新しくとらえ直すこと。

講義・演習計画

回	内 容
第1回	イントロダクション
第2回	開発と停滞(1)
第3回	開発と停滞(2)
第4回	開発と停滞(3)
第5回	開発と停滞(4)
第6回	売買の経済と贈り物の経済(1)
第7回	売買の経済と贈り物の経済(2)
第8回	売買の経済と贈り物の経済(3)
第9回	国家のルールと慣習のルール(1)
第10回	国家のルールと慣習のルール(2)
第11回	国家のルールと慣習のルール(3)
第12回	書かれた歴史と語られる歴史(1)
第13回	書かれた歴史と語られる歴史(2)
第14回	書かれた歴史と語られる歴史(3)
第15回	まとめ

成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	0%
レポート	60%
その他	40%

成績評価の方法 (コメント)	[その他40%] 平常点を評価するために、到達目標に対応する小レポートを複数回実施する。論述の内容、すなわち「授業内容を理解したうえで自分の考えを論理的に記述できているかどうか」を評価する（提出回数だけでは評価せず、記述内容に応じて採点をする）。 [レポート60%] 1000字程度を予定。評価基準について、授業内で詳しく説明する。
---------------------------	--

参考文献	授業において指示する。
事前および事後学習の指示（事前学習 30 時間 ・事後学習 30 時間）	講義中に紹介する文献資料を読むこと。 課題に積極的に取り組むこと。
備考(管理者用)	（旧：世界市民-「貧しさ」を考える）02～19生読替

講義コード	1116130004
講義名称	社会学B 04<秋>
科目英文名	Sociology B
代表ナンバリングコード	0SOC1000
単位数	2.0
時間割	秋学期: 火曜日 2 時限
講義開講時期	秋学期

担当教員

氏名
彭 永成

授業形態	講義	アクティブラーニング
------	----	------------

講義・演習概要	●現代社会学の理論と応用 「社会学B」は「社会学A」の概論に対して、より私たちの社会生活に関わる具体的なテーマを扱う。全体を貫くキーワードは「個人と社会」である。 講義の前半では「私（つまり皆さん自身）」についての考え方を、社会学という学問からのアプローチから紹介する。後半は現代社会の具体的問題について社会的に考察する。 社会に満ちている「あたりまえ」や「ふつう」は私たちの思考や行動をどのように規定しているかを、社会的な思考法を学ぶことによって、学問的に捉え返してみよう。全15回で社会学が論じうる対象の幅広さと、その奥行きを感じてほしい。
学習（到達）目標	（1）「当たり前」とみなされている事象から「問い」を立てる力を身につけること （2）そのための武器（社会的なモノの見方、概念など）を習得すること （3）自分自身に関わる社会規範やステレオタイプから解放される感覚を味わうこと 以上を通じて社会に生きる「私（個人）」を位置づけ、そしてともに生きる「あなた（他者）」への想像力と感受性を育み、社会的な視点を身につける。

講義・演習計画

回	内 容
第1回	はじめに――「個人」と「社会」の関係
第2回	資本主義と民主主義の誕生
第3回	社会認識の発展と社会学の誕生
第4回	権力と支配
第5回	近代と「私」・アイデンティティ
第6回	後期近代と「私」・アイデンティティ
第7回	情報化とメディア
第8回	工業社会の衰退と労働の変化
第9回	消費者と感情労働
第10回	パーソナル・ネットワーク
第11回	宗教と社会
第12回	文化と社会
第13回	環境問題と社会運動
第14回	人種・エスニシティ
第15回	まとめ――社会学の未来

成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	60%
----	-----

レポート	0%
その他	40%

成績評価の方法 (コメント)	「その他」は授業内容に関するミニテストです。出題のタイミングと回数については、初回のガイダンスで担当者から説明があります。回答期限は厳守してください。なお、コロナ禍ですので、授業形態が変更になる可能性があります。
-------------------	--

参考文献	長谷川公一・浜日出夫・藤村正之・町村敬志『社会学（新版）』2019年、有斐閣、3,850円（ISBN 978-4-641-05389-2） 間々田孝夫・藤岡真之・水原俊博・寺島拓幸『新・消費社会論』2021年、有斐閣、2,750円（ISBN 978-4-641-17461-0） 友枝敏雄・樋口耕一・平野孝典編『いまを生きるための社会学』2021年、丸善出版、3,800円（ISBN 978-4621305553） 中西啓喜・萩原久美子・村上あかね編、『大学生からみるライフコースの社会学』2024年、ミネルヴァ書房（ISBN 978-4623097807）
事前および事後学習の指示（事前学習 30 時間 ・事後学習 30 時間）	授業の内容に関連する新聞やニュースを読んでおくこと。 授業時間外の質問はメールよりもM-PortのQ&Aが望ましい。平日に寄せられた質問は24時間以内に回答するが、土日祝日や長期休み中は返信が遅れる場合がある。
備考(管理者用)	（旧：社会学）02～19生読替☆SW・SD生は履修不可

講義コード	1116530003
講義名称	心理学B　03<秋>
科目英文名	Psychology B
代表ナンバリングコード	0PSY2400
単位数	2.0
時間割	秋学期: 火曜日 2 時限
講義開講時期	秋学期

担当教員

氏名
中村　隆行

授業形態	講義
------	----

講義・演習概要	この授業では、「現代の心を取りまく課題と心理的支援」について概説する。 教育や臨床の場面では、さまざまな心の問題に対処するため、心理学理論を応用して研究開発された「心理的支援」に関する理論と技法が利用されている。現代の心の問題と心理的支援の実際について、「現代の心を取りまく課題」「日常生活と心の問題」「心理学的アセスメント」「カウンセリングと心理療法」の観点から基礎的知見と研究成果を概観し、現状と課題および展望について考察する。
学習（到達）目標	・現代の心を取りまく課題と心理的支援の実際について理解している。 ・日常生活と心の健康との関係を理解している。 ・心理学理論と心理的支援の技法を応用して、さまざまな心の問題を探究し適切な対応策を考えることができる。

講義・演習計画

回	内容
第1回	オリエンテーション：現代の心の問題と心理的支援
第2回	現代の心を取りまく課題①：脳と心
第3回	現代の心を取りまく課題②：アタッチメントの形成とその障害
第4回	現代の心を取りまく課題③：発達障害
第5回	現代の心を取りまく課題④：発達障害児への教育的支援
第6回	現代の心を取りまく課題⑤：児童虐待問題とその対策
第7回	日常生活と心の問題①：ストレスとメンタルヘルス
第8回	日常生活と心の問題②：心理病理と精神疾患
第9回	心理学的アセスメント①：アセスメントの基本的考え方
第10回	心理学的アセスメント②：アセスメントの実際
第11回	カウンセリングと心理療法①：カウンセリングの理論と技法
第12回	カウンセリングと心理療法②：精神分析療法
第13回	カウンセリングと心理療法③：行動療法
第14回	心理的支援の課題と展望
第15回	まとめ

成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	
レポート	
その他	100%

成績評価の方法（コメント）	小テストを10回行い、その中央値で評価する
---------------	-----------------------

参考文献	・加藤伸司・山口利勝（編著）『MINERVA 社会福祉士養成テキストブック 21 心理学理論と心理的支援 第2版』 ミネルヴァ書房 ・長谷川寿一・東條正城・大島尚・丹野義彦『はじめて出会う心理学 改訂版』有斐閣アルマ
事前および事後学習の指示（事前学習 30 時間 ・事後学習 30 時間）	・毎回講義終了後、その回の重要事項復習ようとして確認問題を配布する。次回講義まで必ず仕上げておくこと。 ・講義で学習したことが、日常生活でどのように応用できるか考えてみること。
備考(管理者用)	(旧：心理学) 02～19生読替☆SW・SD生は履修不可

講義コード	14D6820000
講義名称	アジア産業論Ⅱ　＜秋＞
科目英文名	Asian Industry Ⅱ
代表ナンバリングコード	ECON2665
単位数	2.0
時間割	秋学期: 火曜日 2 時限
講義開講時期	秋学期

担当教員

氏名
江川　暁夫

授業形態	講義	実務経験のある教員による授業①	実務経験のある教員による授業②
		アジアで経済担当の外交官の経験を踏まえた授業内容	経済官庁でアジア経済分析や対アジア経済協力等を経験した者による実践的な授業内容

講義・演習概要	本講義では、アジア（特にASEAN）各国の産業構造が、各国内の経済政策・産業政策によってどのように影響を受け、各国が産業発展上の問題点の克服に向け、どのような取組を行ってきた（また、行っていくべきか）を、理論と実例を交えながら考える。また、近い将来に目を向け、日本の政府・企業が、今後のアジア各国の産業発展においてどのような役割を担っていけるのかを考える。 具体的には、講義の前半は、(1)アジアの主要国での産業構造転換と当該国での政策との関係を概観した上で、(2)各国で政策を推進する上での政府の体制について考える。後半は、(3)最近の日系企業の対ASEAN進出戦略に係るトピックを紹介する。 なお、本講義の中で必要となる理論やモデルは、「準備学習の指示」の項で述べられているものを除き、授業の中であわせて解説する。
学習（到達）目標	(1)アジアの産業発展は段階的に進んできたが、その時々でふさわしい経済成長戦略を策定し実施できた国が成長を速められたということ及びその産業構造転換において日本の企業がどのように影響力を持ってきたかを理解し、日本のあるべき対アジア経済政策について議論できるようになる。 (2)日本の企業の進出戦略が、従前とは異なる形でアジア諸国の産業構造を規定する可能性があることを理解し、上記(1)に関して更に様々な視点から企業戦略を議論できるようになる。

講義・演習計画

回	内容
第1回	アジアのこれまでの産業構造転換と経済発展の概観
第2回	ASEANの中所得国・低所得国が世界を魅了している産業とその理由
第3回	ASEANの高位中所得国・高所得国が抱える産業発展上の課題／政府の「使命」と産業発展
第4回	産業構造の転換と政策①：低所得国時代の輸入代替工業化政策
第5回	産業構造の転換と政策②：輸入代替工業化から輸出志向工業化への転換
第6回	産業構造の転換と政策③：中所得国のASEANにおける輸出志向工業化後の産業構造転換
第7回	産業構造の転換と政策④：アジア型の産業革命と高所得国化（シンガポールの経験）
第8回	中間まとめ：産業発展段階ごとに必要となる産業と、その構築方策の整理
第9回	「4.0」産業への道筋：シンガポールの先例と「ASEAN 4IR」に向けた取り組み
第10回	産業発展と「開発体制」
第11回	「開発体制」と「政府の質」と「計画」
第12回	日本企業の対ASEAN直接投資の歴史
第13回	日本企業のアジア全域での産業展開：R C E P、連結性の高まり、中国の対一路構想
第14回	ASEANでのSDGs実現への取組と新たな産業形成（BCG経済）
第15回	まとめ：ASEANは日本のサプライチェーンから日本と共存するパートナーへ

成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	25%
----	-----

レポート	59%
その他	16%

成績評価の方法（コメント）	（１）試験は、定期試験が実施されないため、試験と同等の内容の出題を短期間で解くもので代替し、最終回の講義時に出題する。 （２）レポートの５９点については、①毎回、授業の途中ないし終了時に１０分程度の小テスト（１回あたり２～４点満点）に取り組み、その点数をレポート点として付加（全体で総合点の３９％）、②１，３００字程度のレポートが１本（２０点満点）。 （３）毎回、授業内で、ブレインストーミング的な「練習問題」を出題する。これへの解答をもって、授業に積極的に臨む取組の表明とみなし、その他点を適宜配分する。なお、上記（１）の「試験と同等の内容の出題を短期間で解くもの」の提出がない者については、それまでの取組状況にかかわらず、その他点の評点は０点とする。 （４）公欠や病欠、就職活動を理由とする欠席の場合は、大学ないし就職活動先が発行する何らかの書類を提示した場合に限り、その他点について配慮する。
---------------	---

参考文献	『アジア経済読本』第４版　渡辺利夫編　東洋経済新報社 『開発経済学入門』第３版　渡辺利夫著　東洋経済新報社 『国際政治経済学入門』第３版　野村健他著　有斐閣アルマ 『新興アジア経済論－キャッチアップを超えて』　末廣昭著　岩波書店 ※いずれも、具体的な参照頁については、講義の中で紹介する。
事前および事後学習の指示（事前学習 30 時間 ・事後学習 30 時間）	事前学習：日頃、新聞の経済欄や経済関係の社説等を読み、経済の議論においてよく用いられている語句についての理解を心がけるとともに、初歩的なミクロ・マクロ経済学は理解できるようにしておくこと。また、学生諸君が各自関心を持っている職種・分野における日本企業とアジアとの関わりについて、日頃、新聞等でチェックするとよい。 事後学習：授業に出て講義資料に書き込んでいくだけでは理解できない点も多くなることが考えられる。そのため、授業の中で強調された用語や理論を、事後に十分に確認しておくことが望まれる。
備考(管理者用)	（旧：経済学特講－アジア産業論Ⅱ）02～13E・CBCC生読替

【社会人の方へ】
 授業時間内に、QRコードを読み込んで解答する設問が出題されるので、スマートフォン等を毎回持参してください。

講義コード	1560040000
講義名称	国際機構論B　＜秋＞
科目英文名	Studies of International Organizations B
代表ナンバリングコード	POLS2430
単位数	2.0
時間割	秋学期: 火曜日 2 時限
講義開講時期	秋学期

担当教員

氏名
軽部　恵子

授業形態	講義
------	----

講義・演習概要	この科目では、国連のしくみについて安全保障を中心に学びます。具体的には、国連憲章の重要条文、国連の6つの主要機関（とくに総会と安保理）を事例とともに学んでいきます。人権、SDGs、環境問題などは講義冒頭のニュース紹介などで随時取り上げます。 国際機構論の理解には、国際紛争の背景となる世界史、とくに近現代史の知識が不可欠です。受講生は、参考文献を用いて、自分の世界史の知識を確認し、必要であれば自習してください。授業で取り上げるのは、高校の教科書に掲載されていること、および就職試験の筆記試験で問われることです。 講義冒頭では、国内外のメディアのホームページを用いて、国際機構論の視点からニュースを解説します。受講生は、メディアを批判的に読み解く「メディア・リテラシー」を学んでください。
学習（到達）目標	①国連の主要機関とその権限・任務について学ぶ。 ②国連の取組と成果、問題点について、安全保障を中心に考察する。 ③国際問題の理解に必要な一般教養、とくに歴史・地理・文化・宗教に関する基礎知識を獲得する。 ④メディア・リテラシーを身につける。

講義・演習計画

回	内容
第1回	第二次世界大戦と国連の設立
第2回	国連憲章（1）目的
第3回	国連憲章（2）原則
第4回	総会
第5回	事務総長
第6回	安保理（1）任務と権限
第7回	安保理（2）朝鮮戦争
第8回	安保理（3）スエズ戦争とPKO
第9回	安保理（4）湾岸戦争
第10回	安保理（5）冷戦終結後の民族紛争
第11回	安保理（6）アメリカ同時多発テロとイラク戦争
第12回	安保理（7）ロシアのウクライナ侵攻
第13回	安保理（8）イスラエルと中東危機
第14回	核軍縮
第15回	まとめ、期末試験

成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	100%
レポート	0%

その他	0%
-----	----

成績評価の方法 (コメント)	計2回の試験のみで成績評価を行います。出席は成績評価に全く関係ありません。成績が振るわなかった受講生のために、追加の試験やレポートを課すことは一切ありません。詳細は第1回授業資料を読んでください。
-------------------	--

テキスト

	著者	タイトル	教科書購入区分	ISBN	出版社	備考
1.		なし				

参考文献	植木安弘『国際連合：その役割と機能』（日本評論社、2018）、鈴木啓之・児玉恵美編著『パレスチナ／イスラエルの〈いま〉を知るための24章』（明石書店、2024）、青野利彦『冷戦史』全2巻（中公新書、2023）、笈川博一『物語エルサレムの歴史』（中公新書、2010）、高橋正男『物語イスラエルの歴史:アブラハムから中東戦争まで』（中公新書、2008）、黒川祐次『物語ウクライナの歴史』（中公新書、2002）、小林義久『国連安保理とウクライナ侵攻』（ちくま新書、2022）、篠原初枝『国際連盟』（中公新書、2010）、最上敏樹『国連とアメリカ』（岩波新書、2005）、田中久美子監修『理由がわかればもっと面白い！西洋絵画の教科書』（ナツメ社、2021）
事前および事後学習の指示 (事前学習30時間・事後学習30時間)	毎回の授業で指示される参考文献や参考URLをもとに、事前および事後学習をしてください。
その他備考(担当教員用)	・国際機構論Bを履修する予定の人は、極力Aから履修してください。Aの内容を知らないと、Bの内容を理解できません。 ・やむを得ずBから履修する人は、Aの教科書などで17世紀から20世紀前半の世界史を自習してください。就職試験の筆記試験にも出題されます。 ・聖書とギリシャ神話の基礎知識は、国際問題の理解に必須です。西洋絵画の名画の解説を読むと効率的に学べます。
キーワード	国際機構、世界史、国際連盟、国連、欧州連合（EU）、北大西洋条約機構（NATO）
備考(管理者用)	(旧：国際機構論) 02～19E・SS・SW・B・L・J生読替

講義コード	16D4210000
講義名称	保険論〔2〕　＜秋＞
科目英文名	Risk and Insurance
代表ナンバリングコード	CMER3440
単位数	2.0
時間割	秋学期: 火曜日 2 時限
講義開講時期	秋学期

担当教員

氏名
岡田　太志

授業形態	講義	その他
		授業は対面式です。大学の指示に応じて、Zoomによる遠隔講義となる可能性があります。

講義・演習概要	第4次産業革命、AI革命とも呼称される社会的経済的潮流の下、保険業もその例外ではなく、世界的に一大変革期を迎え、これまで成功を約束してきたビジネスモデルの転換が強く迫られています。講義では、保険業の概要を確認した後、保険にかかわる多様な現象を理論的実証的に解説し、同時に、保険利用者がもつリスク保障ニーズの充足という観点を中心に据えながら、保険業の現代的課題について考究します。講義では、皆さんとともに、保険の利用可能性と保険業の将来像について考えます。
学習（到達）目標	学習（到達）目標は以下のとおりです。 （１）保険と保険制度の基本を理解できる。 （２）保険産業の基本を理解できる。 （３）保険の利用可能性を理解できす。 （４）保険に関わる諸問題を洞察し分析できる。

講義・演習計画

回	内容
第1回	イントロダクション （１）リスクとは （２）リスク保障とは （３）保険とは
第2回	保険業の概要 （１）わが国損害保険業の概要 （２）わが国生命保険業の概要
第3回	〔Ⅰ〕保険制度　１．危険に対する経済準備
第4回	２．多数経済主体の結合
第5回	３．共通準備の形成
第6回	４．合理的な抛出 ５．経済制度としての保険
第7回	〔Ⅱ〕保険の歴史　１．保険史研究の意義 ２．海上保険の生成
第8回	３．火災保険の生成 ４．生命保険の生成
第9回	５．日本における保険の生成 ６．近代保険の歴史性
第10回	〔Ⅲ〕保険市場　１．保険需要 ２．保険企業の行動原理
第11回	３．保険料率競争 ４．保険料率カルテルと非料率競争
第12回	５．日本における保険料率規制 ６．金融ビッグバンと保険産業

第13回	〔Ⅳ〕保険金融 1. 保険金融の意義 2. 保険資金の形成 3. 保険金融の現状と推移 4. 保険金融の規制
第14回	〔Ⅴ〕第4次産業革命と保険産業 1. 保険産業におけるイノベーションのジレンマ 2. 相互会社の性格－現状と将来－
第15回	まとめ

成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	90%
レポート	
その他	10%

成績評価の方法（コメント）	授業中試験とその他、参加状況等を総合して成績評価します。 授業中試験は状況により、レポートに切り替えます。 その場合には、M-Portを通じて周知します。
---------------	--

参考文献	水島一也『現代保険経済〔第8版〕』（千倉書房、2006）。 田村祐一郎/高尾厚/岡田太志編著『保険制度の新潮流』（千倉書房、2008）。 高尾厚『保険構造論』（千倉書房、1991）。 他の参考文献については、適宜授業の中で指示する。 資料、レジュメを適宜配布する。
事前および事後学習の指示（事前学習 30 時間 ・事後学習 30 時間）	保険論は極めて学際的な学問分野です。そのため、経済学、統計学、経営学、会計学、民法、商法といった科目の基本を積極的に学習していかれることをお勧めします。テキストは特に指定しません。必要に応じて資料とレジュメを事前に配布します。事前学習としては、それらを参考に予習し（60分程度）、事後学習としては、それらを参考に復習してください（60分程度）。
その他備考（担当教員用）	特になし
キーワード	リスク / リスク保障 / リスク回避者 / 料率 / ソルベンシー / 内部補助 / モラルハザード / 逆選択 / 規制

講義コード	1787500000
講義名称	アジア文化研究-韓国・朝鮮文化B　＜秋＞
科目英文名	Study of Asian Cultures-Korean Culture B
代表ナンバリングコード	CULT2490
単位数	2.0
時間割	秋学期: 火曜日 2 時限
講義開講時期	秋学期

担当教員

氏名
青野　正明

授業形態	講義
------	----

講義・演習概要	近年、日本と韓国との交流が様々な分野で盛んになってきた。その一方で、現代にまで続く歴史的な問題が原因で政治的には安定しない状態がまだ続いている。そこで、この授業では日本の地から現代韓国を知り理解することを目指して、異文化理解に重点を置きながら、伝統的な文化やそれらの変容について全般的に概説していく。 具体的には、言語・風俗・衣服・料理などの諸項目について、パワーポイントを用いて視聴覚資料を多用しながら講義する。そして、奥深い韓国・朝鮮文化のディープな部分まで可能な限り理解していく。
学習（到達）目標	知らないことが多い隣国の文化を知ることが重要である。そして異文化の特質を見つけて理解するための視点や分析方法も学んでいく。その過程で、韓国・朝鮮文化の面白さを自分なりに見出しながら、各回で学ぶ基本的な知識を修得する。そして、多文化共生について自分の考えをもち、文化のコミュニケーション力を身に付けることを目標とする。

講義・演習計画

回	内容
第1回	講義の流れや成績評価等の説明
第2回	言語 1（言語のルーツと漢字文化圏）
第3回	言語 2（ハングルの構造と特徴、外来語）
第4回	宗教 1（巫俗、韓国ドラマを観る視点①）
第5回	宗教 2（仏教・儒教、韓国ドラマを観る視点②）
第6回	宗教 3（キリスト教・新宗教、韓国にキリスト教信者が多い理由）
第7回	集落と住居 1（住居における儒教・風水の要素）
第8回	集落と住居 2（集落における風水の要素）
第9回	風俗 1（年中行事：正月、村祭り、秋夕）
第10回	風俗 2（葬法の変遷、陰暦行事の意義）
第11回	料理と酒 1（焼肉文化：日韓の比較）
第12回	料理と酒 2（キムチの特徴、他の料理、焼酒とマッコリ）
第13回	舞踊・演劇（農楽⇒サムルノリ⇒N A N T A、仮面劇）
第14回	衣服（韓服と和服の起源と比較）
第15回	音楽（「アリラン」いろいろ、映画「アリラン」、アイドルグループが海外公演で歌う「アリラン」）

成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	0%
レポート	50%
その他	50%

成績評価の方法（コメント）	「その他」は毎回の課題テストと受講態度の評価である。 また、授業に出席することは当然であるため、出席が70％以下の者は成績評価の対象外とする。
---------------	--

参考文献	配布プリント 金両基監修『読んで旅する世界の歴史と文化・韓国』新潮社 他にも必要に応じて授業で紹介する。
事前および事後学習の指示 （事前学習 30 時間 ・事後学習 30 時間）	たとえば、言語１・２のように連続する分野は、それぞれのつながりに留意して、その分野を総体的に理解する。また、事前学習では各回のテーマについて図書館やインターネット（適切なサイトを選ぶ）で調べておき、事後学習では各回の配布プリントをよく読み、掲載された関連サイトや資料にも目を通しておくこと。
備考(管理者用)	（旧：アジア文化研究－韓国・朝鮮文化）02～10E・06～10CBCC・02～17L生読替

講義コード	1C02270000
講義名称	歴史学 [2] -ヨーロッパ統合史　<秋>
科目英文名	Hitory-EU Integration and European Societies
代表ナンバリングコード	HIST1000
単位数	2.0
時間割	秋学期: 火曜日 2 時限
講義開講時期	秋学期

担当教員

氏名
豆原　啓介

授業形態	講義
------	----

講義・演習概要	現在に至るヨーロッパ統合の歴史的展開について概観しその流れを把握するとともに、国際政治史を読み解く上で必要な概念を理解することを目的とする。高校の世界史や地理の教科書では第二次大戦後に始まったとされるヨーロッパ統合の理念的萌芽は近世にまで遡り、二度の大戦を経て機が熟した末に実現された試みである。ヨーロッパ統合史を学ぶとは、ともすれば当然視しがちな現代の国家のあり方を問い直すことでもあり、これが本講義の究極的な目標である。また、期末試験の他に抜き打ちで小テストを行う。
学習（到達）目標	・19世紀から現在に至るまでのヨーロッパ統合の歴史的な流れを把握する。 ・ヨーロッパ現代史の基本的な知識を習得する。 ・国際政治の初歩的な概念について理解する。

講義・演習計画

回	内容
第1回	イントロダクション
第2回	ウェストファリア条約と主権国家の誕生
第3回	フランス革命と国民国家/ナショナリズム
第4回	第一次世界大戦の衝撃
第5回	戦間期のヨーロッパ統合構想とその挫折
第6回	第二次世界大戦/国連の意義と問題点
第7回	シューマン・プランとECSCの成立
第8回	EEC創設と関税同盟の機能/EECへのイギリス加盟問題
第9回	ヨーロッパ統合関連文化企画(映画鑑賞を予定)
第10回	ヨーロッパ共同体からヨーロッパ連合へ
第11回	冷戦の終結とEUの東方拡大
第12回	ユーロの誕生とギリシャ・ショック
第13回	シェンゲン条約と移民・難民問題
第14回	イギリス離脱問題と「民主主義の赤字」
第15回	期末試験およびまとめ

成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	90%
レポート	0%
その他	10%

成績評価の方法（コメント）	試験： 90% その他：10% （コメントカードなど） テストはwebにて行うため、試験の際にはノートパソコンの持参が強く推奨される。
---------------	---

参考文献	遠藤乾編『ヨーロッパ統合史』名古屋大学出版会、2008年。
事前および事後学習の指示 （事前学習 30 時間 ・事後学習 30 時間）	事前学習は特に必要とはしないが、歴史科目という特性上理解すべき事項が多岐にわたるために一回の授業が終了する都度、各自が復習し理解の上で次回の授業に臨むことが望まれる。また積極的にヨーロッパ関連の時事ニュースなどをチェックし、講義で扱った内容と関連づけながら各自でヨーロッパ統合に関する理解を深めてほしい。
備考(管理者用)	（旧：共通教養特別講義－ヨーロッパ統合史）02～19生読替

授業外学習	授業だけではテーマに関する情報は十分ではないため、授業外においても積極的に情報収集を行ってほしい。とくに、ディベート回の前には、グループでの入念な準備を推奨する。 あわせて、日常的なニュースの中で関連する内容についてどのような話題があるのか、普段から意識しておくことが望ましい。
教科書	授業内で適宜資料を配布する。
参考書	必要に応じて適宜指示する。
評価方法	授業全体でのワーク・ディスカッション・ディベートへの参加度60%、 期末レポート40%
既修条件	なし

講義コード	1116230003
講義名称	経営学B 03<秋>
科目英文名	Business Management B
代表ナンバリングコード	BUSA1000
単位数	2.0
時間割	秋学期: 火曜日 3 時限
講義開講時期	秋学期

担当教員

氏名
三輪 卓己

授業形態	講義 実務経験のある教員による授業① 企業の人事スタッフ、ならびに組織人事の経営コンサルタントの実務経験を授業に反映させる。
------	--

講義・演習概要	経営学は企業などに代表される組織のマネジメントについての学問である。市場において競合企業と戦い、利益を得るためのマネジメントだけでなく、組織活動を通じて社会に貢献し、そこで働く(関与する)人の幸福を追求するマネジメントを考えることが大きな特徴である。現代社会ではほとんどの人が何らかの組織活動に参加しており、そこにおいて生活の基盤を築いている人も多い。経営学はそれらすべての人たちに有益な学問であるし、これからの社会を考えるうえでも重要な学問だと言える。 この講義では特に、組織と人をどう動かすかというテーマに焦点を当てた議論を行う。
学習（到達）目標	1.経営学に関する基礎的な用語と理論を理解し説明できる。 2.具体的な企業の活動を経営学の用語や理論を使って説明できる。 3.経営学の基礎用語や理論を企業の事例を使って説明できる。 4.マクロ組織論の基礎的な用語と理論を理解し説明できる。 5.ミクロ組織論の基礎的な用語と理論を理解し説明できる。

講義・演習計画

回	内容
第1回	組織と人のマネジメント 実際の企業活動を支えるチームや個人をどう動かすのか、そのための具体的な企業の活動やそれに関する基本的な理論について解説する。
第2回	モチベーション（内容理論） 働く人の動機づけについて、「人は何に動機づけられるか」(=欲求)を重視した理論を学習する。
第3回	モチベーション（過程理論） 働く人の動機づけについて、「人はどのように動機づけられるか」(=プロセス)を重視した理論を学習する。
第4回	組織コミットメント 働く人が組織に対して持つ愛着や一体感について学び、それを活かしたマネジメントについて展望する。
第5回	ケーススタディ(組織コミットメント) 組織コミットメントの意義と弊害について実例を通して学ぶ。
第6回	組織市民行動 働く人が組織に対して無償で行う献身的な行動について、それがなぜ起こるのか、またその意義や効果は何か、について学習する
第7回	心理的契約 働く人と雇用する組織の間に形成される心理的な(言語化されない)契約について学び、それが履行されない場合の問題等について議論する。
第8回	組織とストレス 組織の中にあるストレスとその対処方法について学習する。
第9回	ケーススタディ(ストレス) 感情労働の現場にあるストレスや、その対処方法を議論する。
第10回	プロフェッショナルリズム 高度な専門性と自律性を持つプロフェッショナルの特性と、そのマネジメントについて学習する。
第11回	リーダースhip 組織の中のリーダー行動について、仕事志向と人間志向という二つの行動に着目する古典的な理論を学ぶ。

第12回	ケーススタディ(リーダーシップ) 異なるスタイルのリーダーシップの具体例とその意義を学ぶ。
第13回	変革型のリーダー 近年重要になってきている組織を変革するリーダーの行動特性について学ぶ。
第14回	これからの社会のキャリア これからの知識・情報社会におけるキャリアが工業化社会とどう異なるのかを学ぶ。
第15回	まとめ 全体を振り返り、ポイントの整理と今後に向けての展望を行う。

成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	
レポート	80%
その他	20%

成績評価の方法（コメント）	最終レポートとケーススタディでの発表を中心に評価する。 それに授業中での発言や質問，ならびに授業後の質問メール等による加点を行う。
---------------	--

テキスト

	著者	タイトル	教科書購入区分	ISBN	出版社	備考
1.	開本浩矢編著	ベーシック+組織行動論	大学オンライン販売	978-4502295614	中央経済社	

	第1回 (事前学習)テキスト第1章を読んで疑問点等をまとめておくこと (事後学習)配付する講義資料を見直して授業のポイントを確認すること 第2回～第3回 (事前学習)テキスト第2章を読んで疑問点等をまとめておくこと (事後学習)配付する講義資料を見直して授業のポイントを確認すること 第4回 (事前学習)テキスト第3章を読んで疑問点等をまとめておくこと (事後学習)配付する講義資料を見直して授業のポイントを確認すること 第5回 (事前学習)事前にM-PORTに示される課題に取り組むこと (事後学習)ケースでの学びに関連する理論をテキスト等で振り返ること 第6回 (事前学習)テキスト第6章を読んで疑問点等をまとめておくこと (事後学習)配付する講義資料を見直して授業のポイントを確認すること 第7回 (事前学習) 講義の中で指示する資を読んで疑問点等をまとめておくこと (事後学習)配付する講義資料を見直して授業のポイントを確認すること 第8回 (事前学習)テキスト第7章を読んで疑問点等をまとめておくこと (事後学習)配付する講義資料を見直して授業のポイントを確認すること 第9回 (事前学習)事前にM-PORTに示される課題に取り組むこと (事後学習)ケースでの学びに関連する理論をテキスト等で振り返ること 第10回 (事前学習)テキスト第16章を読んで疑問点等をまとめておくこと (事後学習)配付する講義資料を見直して授業のポイントを確認すること 第11回 (事前学習)テキスト第9章を読んで疑問点等をまとめておくこと (事後学習)配付する講義資料を見直して授業のポイントを確認すること 第12回 (事前学習)事前にM-PORTに示される課題に取り組むこと (事後学習)ケースでの学びに関連する理論をテキスト等で振り返ること 第13回 (事前学習)テキスト第9章，第11章を読んで疑問点等をまとめておくこと (事後学習)配付する講義資料を見直して授業のポイントを確認すること 第14回 (事前学習)M-Portで指示する資料を見て疑問点等をまとめておくこと
事前および事後学習の指示（事前学習 30 時間 ・事後学習 30 時間）	

	(事後学習)配付する講義資料を見直して授業のポイントを確認すること 第15回 (事前学習)M-Portで指示する資料を見て疑問点等をまとめておくこと (事後学習)配付する講義資料を見直して授業のポイントを確認すること
キーワード	モチベーション，コミットメント，リーダーシップ，人的資源管理。キャリア開発
備考(管理者用)	(旧：経営学) 02～19生読替

講義コード	1116530004
講義名称	心理学B 04<秋>
科目英文名	Psychology B
代表ナンバリングコード	0PSY2400
単位数	2.0
時間割	秋学期: 火曜日 3 時限
講義開講時期	秋学期

担当教員

氏名
中村 隆行

授業形態	講義
------	----

講義・演習概要	この授業では、「現代の心を取りまく課題と心理的支援」について概説する。 教育や臨床の場面では、さまざまな心の問題に対処するため、心理学理論を応用して研究開発された「心理的支援」に関する理論と技法が利用されている。現代の心の問題と心理的支援の実際について、「現代の心を取りまく課題」「日常生活と心の問題」「心理学的アセスメント」「カウンセリングと心理療法」の観点から基礎的知見と研究成果を概観し、現状と課題および展望について考察する。
学習（到達）目標	・現代の心を取りまく課題と心理的支援の実際について理解している。 ・日常生活と心の健康との関係を理解している。 ・心理学理論と心理的支援の技法を応用して、さまざまな心の問題を探究し適切な対応策を考えることができる。

講義・演習計画

回	内容
第1回	オリエンテーション：現代の心の問題と心理的支援
第2回	現代の心を取りまく課題①：脳と心
第3回	現代の心を取りまく課題②：アタッチメントの形成とその障害
第4回	現代の心を取りまく課題③：発達障害
第5回	現代の心を取りまく課題④：発達障害児への教育的支援
第6回	現代の心を取りまく課題⑤：児童虐待問題とその対策
第7回	日常生活と心の問題①：ストレスとメンタルヘルス
第8回	日常生活と心の問題②：心理病理と精神疾患
第9回	心理学的アセスメント①：アセスメントの基本的考え方
第10回	心理学的アセスメント②：アセスメントの実際
第11回	カウンセリングと心理療法①：カウンセリングの理論と技法
第12回	カウンセリングと心理療法②：精神分析療法
第13回	カウンセリングと心理療法③：行動療法
第14回	心理的支援の課題と展望
第15回	まとめ

成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	
レポート	
その他	100%

成績評価の方法（コメント）	小テストを10回行い、その中央値で評価する
---------------	-----------------------

参考文献	・加藤伸司・山口利勝（編著）『MINERVA 社会福祉士養成テキストブック 21 心理学理論と心理的支援 第2版』 ミネルヴァ書房 ・長谷川寿一・東條正城・大島尚・丹野義彦『はじめて出会う心理学 改訂版』有斐閣アルマ
事前および事後学習の指示（事前学習 30 時間 ・事後学習 30 時間）	・毎回講義終了後、その回の重要事項復習ようとして確認問題を配布する。次回講義まで必ず仕上げておくこと。 ・講義で学習したことが、日常生活でどのように応用できるか考えてみること。
備考(管理者用)	(旧：心理学) 02～19生読替☆SW・SD生は履修不可

講義コード	1530130000
講義名称	現代家族論　＜秋＞
科目英文名	Approach to Contemporary Families
代表ナンバリングコード	0SOC2430
単位数	2.0
時間割	秋学期: 火曜日 3 時限
講義開講時期	秋学期

担当教員

氏名
木下　栄二

授業形態	講義
------	----

講義・演習概要	今、日本の家族はどのような状況にあるのだろうか。少子化、未婚化、高齢化など、様々な問題が指摘されているが、実態はどのようなのであろうか。この講義では、家族社会学の視点から、多様なデータを読み解くことで、現代日本の家族の姿について考えていきたい。
学習（到達）目標	日本の家族の現状について、家族社会学的に理解することを目指す。 そして、今後はどうなっていくのか、自分自身の人生と社会とのかかわりを含めて考察する力を養う。

講義・演習計画

回	内 容
第1回	イントロダクション　現代日本家族の概況
第2回	恋愛と性①　恋愛の誕生
第3回	恋愛と性②　恋愛離れは本当か
第4回	結婚行動①　恋愛結婚の誕生
第5回	結婚行動②　未婚化のゆくえ
第6回	夫婦関係①　性別役割分業
第7回	夫婦関係②　夫婦の満足度
第8回	離婚・再婚
第9回	妊娠・出産・中絶
第10回	親子関係①　子育て
第11回	親子関係②　青年期の親子関係
第12回	親子関係③　中高年期の親子関係
第13回	高齢社会がやってきた
第14回	貧困と家族
第15回	近代家族を超えて

成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	80%
レポート	20%
その他	

成績評価の方法（コメント）	出席は原則としてとらない。授業中にうるさい者、ふざけた態度の者は即刻不可とするので注意するように。
---------------	---

--

参考文献	永田夏来・松木洋人、2017、『入門 家族社会学』新泉社 由井秀樹、2017、『少子化社会と妊娠・出産・子育て』北樹出版
事前および事後学習の指示（事前学習 30 時間 ・事後学習 30 時間）	家族に関わる日々のニュース等に注意すること。配布されたプリントを復習すること。
備考(管理者用)	（旧：家族社会学）02～18SS・17～18SW・02～07L生読替

講義コード	17E0520000
講義名称	英語の文法A　＜秋＞
科目英文名	English Grammar A
代表ナンバリングコード	LING3410
単位数	2.0
時間割	秋学期: 火曜日 3 時限
講義開講時期	秋学期

担当教員

氏名
森下　裕三

授業形態	講義
------	----

講義・演習概要	この授業では、必要に応じて日本語などの言語と比較しながら、英語の文法とはどのようなものなのかを概観します。そのため、実際に使われている数々の具体例を授業で取り上げます。英語学の専門用語の暗記は目的としていませんが、しっかりと問題意識を持ちながら考え、授業のなかでも受講生にはさまざまな形で授業へ参加することが求められます。英語という言葉に隠された謎を解き明かす魅力を体験してもらうことが目的です。基礎的な英文法の復習などは目的としていません。なお、「英語の文法B」との違いは、扱うテーマや視点の違いであって難易度の違いではありません。
学習（到達）目標	この授業では、英文法の分析方法が理解でき、実際に自分の力で英語の分析ができるようになることを目標とします。

講義・演習計画

回	内容
第1回	オリエンテーション：暗記ではない英語の文法
第2回	語と形態素
第3回	英語の派生と屈折
第4回	語の構造と複合語
第5回	小テスト (1) と解説
第6回	項構造と文法関係
第7回	文法における意味役割
第8回	語と句
第9回	句構造
第10回	小テスト (2) と解説
第11回	談話と情報構造
第12回	情報構造と文法
第13回	類型論における英文法
第14回	英文法と日本語文法
第15回	小テスト (3) と解説

成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	30%
レポート	20%
その他	50%

成績評価の方法（コメント）	毎回の授業中に提出してもらったレポートやその他の課題、理解度を確保するための授業課題、そして3回実施する小テストによって成績評価されます。
---------------	---

参考文献	小野尚之 (2024)『ベーシック形態論』，ひつじ書房：東京. 岸本秀樹 (2009)『ベーシック生成文法』，ひつじ書房：東京. 神尾昭雄・高見健一 (1998)『談話と情報構造』，研究社：東京.
事前および事後学習の指示（事前学習 30 時間 ・事後学習 30 時間）	授業課題は、授業の内容と課題についてよく理解した上で取り組む必要があります。授業内容は録画し、授業翌日までに M-Port より視聴可能な URL を掲出しますので。十分に復習した上で課題に取り組んでください。
備考(管理者用)	（旧：英語の文法）08～17L生読替☆（旧：統語論）02～07L生読替

講義コード	1C30400002
講義名称	教養教育特別講義-メディアと多様性 02<秋>
科目英文名	Special Topic in Liberal Arts-Media and Diversity
代表ナンバリングコード	LBAT1000
単位数	2.0
時間割	秋学期: 火曜日 3 時限
講義開講時期	秋学期

担当教員

氏名
土屋 祐子

授業形態	講義	アクティブラーニング	実務経験のある教員による授業①
	オンラインニュースの取材や編集、制作の経験を持つ教員が、ジャーナリズムやインターネットにおける多様性の課題や可能性について講義する。		

講義・演習概要	グローバル化の進展により、様々な価値観の交わる多様性を背景とした社会が到来している。スマートフォンを常に手元に置くわれわれの日々の生活では、メディアに媒介されたコミュニケーションが常態化しており、多様性に基づくメディア・コミュニケーション環境を検討することが重要になっている。本講義では、メディアと社会の相互作用に着目するメディア論のアプローチに基づき、メディアと多様性について考察していく。講義内容と関連したドラマや動画の映像分析や、クリッカーの活用など、参加型の学習方法を取り入れて進める。
学習（到達）目標	(1) メディア論によるアプローチとは何かを理解し、自分の言葉でまとめられる。 (2) 多様性をめぐるメディアの歴史的展開について理解し、説明できる。 (3) 多様性をめぐるメディア・コミュニケーションの理論について理解し、説明できる。 (4) 多様性のためのメディア・コミュニケーション環境について、自分なりの考えを述べられる。

講義・演習計画

回	内容
第1回	オリエンテーション：多様性をめぐるメディア論的アプローチ
第2回	多様性のためのメディア論の理解 (1) メディアはメッセージ
第3回	多様性のためのメディア論の理解 (2) メディアの生成
第4回	メディアの多様性 (1) 放送の誕生と変容
第5回	メディアの多様性 (2) インターネット・SNSの誕生
第6回	メディア論とメディアの多様性のまとめと確認テスト (1)
第7回	メディア・コミュニケーション理論と多様性 (1) ステレオタイプ
第8回	メディア・コミュニケーション理論と多様性 (2) オーディエンス研究とカルチュラル・スタディーズ
第9回	メディア・コミュニケーション理論と多様性 (3) ケアのジャーナリズムと社会的包摂
第10回	メディア・コミュニケーション理論と多様性のまとめと確認テスト (2)
第11回	多様性のためのメディア実践 (1) ジェンダーとエスニシティ
第12回	多様性のためのメディア実践 (2) イギリスにおける教育の挑戦
第13回	多様性のためのメディア実践 (3) ハワイに見る多文化社会とメディア環境
第14回	多様性のためのメディア実践 (4) 当事者メディア・ワークショップ
第15回	まとめ

成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	26%
----	-----

レポート	50%
その他	24%

成績評価の方法（コメント）	試験26％（確認テスト2回・各13％）、期末レポート50%、作業課題24％で評価する。
---------------	---

参考文献	水越伸（2023）『メディアの生成ーアメリカ・ラジオの動態史』筑摩書房 小川明子編（2018）「インクルーシブ・メディアーメディアの包摂と排除ー」https://inclusive-media.net/ 水嶋一憲・ケイン樹里安・妹尾麻美・山本泰三）『プラットフォーム資本主義を解読する: スマートフォンからみえてくる現代社会』ナカニシヤ出版 吉見俊哉（2012）『メディア文化論 改訂版』有斐閣 長谷川一・村田麻里子編（2015）『メディアリテラシー・トレーニング』三省堂 白水繁彦（2015）『ハワイにおけるアイデンティティ表象ー多文化社会の語り・踊り・祭り』御茶の水書房
事前および事後学習の指示（事前学習 30 時間 ・事後学習 30 時間）	事前学習として日常のメディア接触から多様性に関する気づきや自分の考えをまとめておくこと。事後学習として作業課題に取り組み、身の回りのメディアや社会の出来事と結び付けて考えを掘り下げること。
備考(管理者用)	（旧：共通教養特別講義ーメディアと多様性）02～19生読替

講義コード	14D4520000
講義名称	地方財政論Ⅱ　＜秋＞
科目英文名	Local Public Finance Ⅱ
代表ナンバリングコード	FINC2470
単位数	2.0
時間割	秋学期: 火曜日 4 時限
講義開講時期	秋学期

担当教員

氏名
田代　昌孝

授業形態	講義
------	----

講義・演習概要	経済のグローバル化と少子高齢化が進む中で、政府に求められる役割が大きくなってきた。国も地方も膨大な借金を抱えており、今日において財政の再編が求められている。とりわけ、地方財政は厳しい財政状況に直面しており、何らかの改革が必要となっている。地方分権や地域の活性化、あるいは官業の民間委託はその典型的な例と言えよう。本講義では地方分権の基礎的な議論を踏まえたうえで、わが国の地方財政の実態について説明する。 地域公共政策や公益事業の学問領域を専門とするため、公務員や県・市の外郭団体に勤めることを希望する学生の基礎を身につけることを目的としている。
学習（到達）目標	新聞報道で伝えられた地方分権に関する記事、たとえば市町村合併、大阪都構想、東日本大震災、ふるさと納税と地方財政のあり方について私見が述べられることを目標とする。

講義・演習計画

回	内容
第1回	ガイダンス。 地方分権とは何か。 成績評価についての説明。 講義を受けるうえでの注意事項。
第2回	地方分権改革と政府間競争（様々な分権化指標）
第3回	地方分権と三位一体改革（歴史的過程を中心に）
第4回	市町村合併と広域行政（地方の効率化と独自性）
第5回	大阪都構想について（首都東京への対抗行政）
第6回	道州制の議論（アメリカの連邦制を踏まえながら）
第7回	地方財政と福祉（子育て・年金・医療・介護）
第8回	地域経済の発展と地方財政（公共事業とその経済効果）
第9回	地方財政の効率化と自治体行政（NPM理論）
第10回	将来的な民営化への準備（PFI事業）
第11回	地方公営企業のあり方（コロナ禍での病院事業を中心に）
第12回	第三セクター問題（地方活性化の理想と現実）
第13回	夕張市の財政破綻問題（求められる財政健全化）
第14回	東日本大震災と地方財政（硬直化した財政支出）
第15回	ふるさと納税の現状と課題（失われた費用便益）

成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	100%
----	------

レポート	
その他	

成績評価の方法（コメント）	【成績評価について】 M-Portによる課題提出が30%、学期末に出されるレポート課題が70%。
---------------	--

テキスト

	著者	タイトル	教科書購入区分	ISBN	出版社	備考
1.	林宜嗣	新・地方財政	大学オンライン販売	9784641184565	有斐閣ブックス	

参考文献	菅原宏太・松本 睦・加藤秀弥著『地方財政の見取り図』有斐閣、2023年。（ISBN9784641151161） 林 宏昭・橋本恭之著『入門地方財政 第3版』中央経済社、2013年。（ISBN978450265） 佐藤主光著『地方財政入門』新世社、2009年。（ISBN9784883841332）
事前および事後学習の指示（事前学習 30 時間 ・事後学習 30 時間）	講義テーマに該当する配布資料を事前に熟読するようにして下さい。
備考(管理者用)	（旧：地方財政論）02～10生読替（E・CBCC・J生のみ）

講義コード	14D6320000
講義名称	中国経済論Ⅱ　＜秋＞
科目英文名	Chinese Economy Ⅱ
代表ナンバリングコード	ECON2705
単位数	2.0
時間割	秋学期: 火曜日 4 時限
講義開講時期	秋学期

担当教員

氏名
大島　一二

授業形態	講義	プレゼンテーション
------	----	-----------

講義・演習概要	改革・開放政策実施以降の30余年で中国の経済は大きく発展した。国内総生産の実質成長年率は年率10％に達し、日本経済の高度経済成長期に匹敵する水準である。これにより2010年には世界第2位のGDP大国となった。また外貨準備高はすでに世界第1位の水準にある。この結果、多くの日本企業が中国に参入している。 しかし、国内には解決しなければならない課題も山積している。例えば、三農問題といわれる農業・農村の停滞、1.5億人ともいわれる大規模な労働力流動と都市・農村社会の急激な変容、国際的問題ともなった食品安全問題、深刻な環境問題など数多い。本講義では、中国経済の成長過程を明らかにし、高度成長が実現した背景、直面している主な問題、今後の課題について解説する。また、台湾、香港、マカオ等の地域の経済についても解説する。テキストのほかに、中国経済の動きに関する新聞報道なども紹介し、NHKなどが制作したドキュメンタリーを放映するなどして、わかりやすい授業に心掛ける。 この中国経済論Ⅱでは、現在の中国経済が直面する問題点、日本経済と中国経済の関係、日本企業の中国投資等について取り扱う。
学習（到達）目標	日本と中国の経済的な繋がりはますます深まっているが、現代の中国経済はどのように形成されてきたのか、またその課題は何かについて体系的、客観的に理解する。

講義・演習計画

回	内容
第1回	オリエンテーション。授業の進め方、講義内容の概要などについて説明する。
第2回	人口政策と人口問題
第3回	中国の社会保障制度の現状と課題
第4回	三農問題といわれる農業・農村問題、経済格差の拡大
第5回	地域間労働移動と労働市場、農村からの労働力移動
第6回	農業と食料問題
第7回	食品安全問題
第8回	水問題、水資源問題と水質汚染問題
第9回	生態環境問題と環境政策
第10回	環境問題とエネルギー
第11回	社会保障制度の課題
第12回	日本経済と中国経済
第13回	日中貿易の実態
第14回	日本企業の中国投資
第15回	まとめ

成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	0%
----	----

レポート	50%
その他	50%

成績評価の方法（コメント）	対面授業を想定し、以下のように配点する。 M-Portによるレポート（必修、1回、50点）、課題（5回各10点、50点）を基本とする。 さらに講義への出席を促進するため、出席点20点（4回各5点）を加点する。 合計120点となるが、評価は他の講義と同様に以下の基準である。 59点以下 D、60～69点 C、70～79点 B、80～89点 A、90点～120点 S。
---------------	--

参考文献	大島一二編著（2007）『中国野菜と日本の食卓　ー産地、流通、食の安全・安心』芦書房。 大島一二（2015）『日系食品産業における中国内販戦略の転換（日本農業市場学会研究叢書）』筑波書房。 大島一二・山田七絵（2019）『朝日緑源、10年の軌跡』農林統計出版。
事前および事後学習の指示（事前学習 30 時間 ・事後学習 30 時間）	この講義の履修には中国経済論Ⅰの履修が前提となる。テキストは特に指定しないが、必要に応じて資料を配布する。できるだけ参考文献を読んでおくこと。
キーワード	中国・台湾・香港・マカオ経済、中国農業・農村、環境問題
備考(管理者用)	（旧：中国経済論）02～10生読替（E・CBCC・L・文学部生のみ）

講義コード	1611020000
講義名称	財務会計論（基礎）　　＜秋＞
科目英文名	Financial Accounting (basic)
代表ナンバリングコード	ACCT3400
単位数	2.0
時間割	秋学期: 火曜日 4 時限
講義開講時期	秋学期

担当教員

氏名
井上　謙仁

授業形態	講義
------	----

講義・演習概要	企業は日々経営活動を行い成果を生む。財務会計は企業が外部の利害関係者に経営活動の成果を報告するためのシステムである。本授業では、この財務会計の理論、機能、財務会計にまつわる制度について包括的に学ぶことを目的としている。
学習（到達）目標	①財務会計の理論や機能がわかる ②財務会計にまつわる諸制度がわかる ③財務諸表の仕組みがわかる ④資産、負債、純資産、収益、費用の内容がわかる

講義・演習計画

回	内 容
第1回	オリエンテーション
第2回	財務会計の機能
第3回	財務会計の制度
第4回	利益計算の仕組み
第5回	会計基準、会計公準論、概念フレームワーク
第6回	企業会計原則の一般原則、会計情報の質的特性
第7回	利益測定と資産評価の基礎概念
第8回	現金預金と有価証券
第9回	売上高と売上債権
第10回	棚卸資産と売上原価
第11回	有形固定資産と減価償却
第12回	無形資産と繰延資産
第13回	負債
第14回	株主資本と純資産
第15回	試験およびまとめ

成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	100%
レポート	0%
その他	

成績評価の方法（コメント）	①課題を毎回行う。 ②学期の最後にまとめのテスト課題を行う。
---------------	-----------------------------------

テキスト

	著者	タイトル	教科書購入区分	ISBN	出版社	備考
1.	桜井久勝	財務会計講義	大学オンライン販売	9784502500718	中央経済社	最新版を指定

参考文献	桜井久勝・須田一幸. 2024.『財務会計・入門〔第17版〕』有斐閣. 田村威文・中條祐介・浅野信博. 2021.『会計学の手法（第2版）』中央経済社. 山本達司. 2023.『財務会計のファンダメンタルズ』中央経済社.
事前および事後学習の指示（事前学習 30 時間 ・事後学習 30 時間）	事前学習：各授業の該当箇所について教科書を読んでおく。 事後学習：授業で実施した内容について復習して、課題を行う。
キーワード	企業会計、財務会計、制度会計、発生主義会計、財務諸表
備考(管理者用)	（旧：財務諸表論）02～17生読替

講義コード	17F4530000
講義名称	メディアリテラシー論B　＜秋＞
科目英文名	Media Literacy B
代表ナンバリングコード	FMED3410
単位数	2.0
時間割	秋学期: 火曜日 4 時限
講義開講時期	秋学期

担当教員

氏名
土屋　祐子

授業形態	講義	アクティブラーニング	実務経験のある教員による授業①
	オンラインニュースの取材、編集、制作の経験を持つ教員が、インターネットの社会的実践について解説する。		

講義・演習概要	本授業では、社会生活におけるメディアリテラシーの実践について取り上げる。スマートフォンの普及やソーシャルメディアの発達により、私たちの日常はメディアを介したコミュニケーションがより常態化している。そうした中で、多様なメディアを読む（理解する）書く（表す・伝える）力であるメディアリテラシーを、私たちの生活や社会活動で活かしていく重要性が増している。さらには、これからの社会のためにメディア環境をリ・デザインしていく力も求められている。本講義では社会生活においていかにメディアと関わっていくかを考えていく。映像分析やクリッカーの活用などアクティブラーニングの手法を取り入れて進める。
学習（到達）目標	(1) メディアリテラシーとは何かについて自分の言葉でまとめられる。 (2) メディアの歴史的誕生と情報を生み出すしくみについて理解し、説明できる。 (3) メディアを読み解き、表現するにはどうしたらよいのか自分の意見を述べられる。 (4) 社会生活におけるメディアとの関わり方について独自のアイディアを出せる。

講義・演習計画

回	内容
第1回	オリエンテーション：メディアリテラシーの基本的な考え方
第2回	メディアを知る（1）「映画」の誕生
第3回	メディアを知る（2）電話の歴史的変容と2つのメディア論
第4回	メディアを知る（3）アーキテクチャーとコミュニケーションデザイン
第5回	メディアを知る（4）フェイクニュースが生まれるしくみ
第6回	確認テスト（1）
第7回	メディアを読み解く（1）女性被害者とラベリング
第8回	メディアを読み解く（2）ジェンダー広告と炎上、オーディエンス
第9回	メディアを読み解く（3）「外国人」選手と異文化表象
第10回	確認テスト（2）
第11回	メディアのリ・デザインに向けて（1）世界の多様なメディア
第12回	メディアのリ・デザインに向けて（2）日本の多様なメディア
第13回	メディアのリ・デザインに向けて（3）多様な視点で地域を語る
第14回	メディアのリ・デザインに向けて（4）＜大阪＞とメディア・アイデンティティ
第15回	まとめ

成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	20%
レポート	50%

その他	30%
-----	-----

成績評価の方法（コメント）	試験20%（確認テスト2回・各10%）、期末レポート50%、作業課題30%で評価する。
---------------	---

テキスト

	著者	タイトル	教科書購入区分	ISBN	出版社	備考
1.	石田佐恵子・岡井崇之編	基礎ゼミメディアスタディーズ	大学オンライン販売	978-4790717416	世界思想社	2020年

参考文献	中橋雄・NHK学園編（2024）『世界は切り取られてできているーメディア・リテラシーを身につける』NHK出版 水越伸（2023）『メディアの生成ーアメリカ・ラジオの動態史』筑摩書房 松本恭幸編（2022）『地域でつくる・地域をつくるメディアとアーカイブ』大月書店 土屋祐子（2019）『「メディウムフレーム」からの表現ー創造的なメディアリテラシーのために』広島経済大学出版会 長谷川一・村田麻里子編（2015）『メディアリテラシー・トレーニング』三省堂
事前および事後学習の指示（事前学習 30 時間 ・事後学習 30 時間）	事前学習として、各授業のテキストの該当箇所を読み、疑問点などをまとめておくこと。事後学習として、作業課題に取り組み、授業の内容を自分の身の回りのメディアコミュニケーションと結び付け、学んだことを発展的に考え理解を深めること。
備考(管理者用)	（旧：メディアリテラシー論）08～17L生読替

講義コード	15E2320000
講義名称	公的扶助論B　＜秋＞
科目英文名	Public Assistance B
代表ナンバリングコード	SOCW2520
単位数	2.0
時間割	秋学期: 火曜日 5 時限
講義開講時期	秋学期

担当教員

氏名
忠岡　一也

授業形態	講義	実務経験のある教員による授業①
		ソーシャルワーカーとして相談支援に取り組んできた教員が、その経験を活かして、貧困状態にある人の生活実態や生活課題を踏まえ、貧困に係る法制度と支援の仕組み、支援方法等について講義する。

講義・演習概要	現行生活保護制度の原理、原則をはじめ運用の実態や意義、役割や課題について学びます。明治期以降現在に至るわが国公的扶助制度の変遷について、それぞれの時代の制度・政策の考え方や実態、問題点等を考察します。また、社会福祉士国家試験の出題問題を参考に理解を深めます。 ※本講義は「公的扶助論A」（春学期）を履修後に受講することで、より理解を深めることができます。
学習（到達）目標	○最低生活やセーフティネットの概念について理解する。 ○生活保護制度の歴史について理解する。 ○現行生活保護制度の理念と内容について理解する。 ○生活保護制度と「自立」の関係について理解する。 ○現行生活保護制度の課題・問題点について理解する。

講義・演習計画

回	内 容
第1回	オリエンテーション　公的扶助論Aの再確認
第2回	生活保護の歴史（恤救規則、救護法、旧生活保護法から新生活保護法へ）
第3回	生活保護制度の基本原理（１）（概要）
第4回	生活保護制度の基本原理（２）（補足性の原理）
第5回	生活保護制度の原則
第6回	生活保護の種類と体系
第7回	生活保護の実施体制（１）（行政組織の役割、権限）
第8回	生活保護の実施体制（２）（福祉事務所と社会福祉主事）
第9回	生活保護の運営（１）（申請から決定まで）
第10回	生活保護の運営（２）（調査、認定、開始・変更・低廃止）
第11回	生活保護の運営（３）（医療扶助と介護扶助）
第12回	被保護者の権利と義務、不服申立制度
第13回	生活保護の財政　生活保護の動向と課題
第14回	生活困窮者自立支援制度の意義と役割
第15回	課題と展望のまとめ　試験

成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	50%
----	-----

レポート	20%
その他	30%

成績評価の方法（コメント）	試験の結果にレポート提出状況及び授業課題への取組み状況等を加味して単位認定する。 詳細は授業初回に説明するため、初回授業には必ず出席すること。
---------------	--

テキスト

	著者	タイトル	教科書購入区分	ISBN	出版社	備考
1.	福祉臨床シリーズ編集委員会 編・伊藤秀一 責任編集	新・社会福祉士シリーズ16 貧困に対する支援	大学オンライン販売	978-4-335-61221-3	弘文堂	2022年05月発刊（公的扶助論Aと同じテキスト）
2.	生活保護制度研究会 編集	生活保護のてびき 〈令和7年度版〉	大学オンライン販売		第一法規出版	

参考文献	生活保護手帳 別冊問答集 中央法規出版 Q&A生活保護手帳の読み方・使い方 [第2版] 吉永純 明石書店 生活保護と貧困対策-その可能性と未来を拓く-岩永理恵、卯月由佳、木下武徳 有斐閣 押さえておきたい公的扶助・生活保護行政 元田宏樹、松浦賢治、門井弘明 ぎょうせい 健康で文化的な最低限度の生活（1～13巻）柏木ハルコ 小学館 THE BIG ISSUE JAPAN （ビッグイシュー日本版） ※参考文献については、購入の必要はありません。
事前および事後学習の指示（事前学習 30 時間 ・事後学習 30 時間）	公的扶助論の中核である生活保護制度は歴史的にも古く、また現行制度はその上に成立していることから、複雑で精緻な制度です。 専門職として実践力を期待される重要な学習分野です。予習・復習を繰り返して、各回の講義を理解するよう努めてください。
その他備考（担当教員用）	講義資料は毎回配付します。詳細は初回講義で説明しますので、履修希望の学生は必ず出席してください。
キーワード	公的扶助 生活保護 貧困 セーフティネット 生活困窮者
備考(管理者用)	（旧：公的扶助論）02～08生読替

講義コード	1611030000
講義名称	財務会計論（応用）　　<秋>
科目英文名	Financial Accounting (advanced)
代表ナンバリングコード	ACCT3400
単位数	2.0
時間割	秋学期: 火曜日 5 時限
講義開講時期	秋学期

担当教員

氏名
井上　謙仁

授業形態	講義
------	----

講義・演習概要	企業は日々経営活動を行い成果を生む。財務会計は企業が外部の利害関係者に経営活動の成果を報告するためのシステムである。本授業では、この財務会計の理論、機能、財務会計にまつわる制度について、応用的な論点を学ぶことを目的としている。また、数式を活用して財務会計の理論を理解することを目指す。なお、本授業は「財務会計論（基礎）」を同時履修、あるいは過年度履修していることが望ましい。
学習（到達）目標	①財務会計の理論や機能がわかる ②財務会計にまつわる諸制度がわかる ③財務諸表の仕組みがわかる ④資産、負債、純資産、収益、費用の内容がわかる

講義・演習計画

回	内 容
第1回	オリエンテーション
第2回	財務諸表の意義と構造
第3回	現金預金と金銭債権
第4回	有価証券
第5回	収益の認識
第6回	棚卸資産
第7回	有形固定資産
第8回	減損会計
第9回	リース会計
第10回	無形固定資産・投資その他の資産・繰延資産
第11回	引当金
第12回	退職給付会計
第13回	社債
第14回	純資産
第15回	試験およびまとめ

成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	100%
レポート	0%
その他	0%

成績評価の方法（コメント）	①課題を毎回行う。 ②学期の最後にまとめのテスト課題を行う。
---------------	-----------------------------------

テキスト

	著者	タイトル	教科書購入区分	ISBN	出版社	備考
1.	山本達司	財務会計のファンダメンタルズ	大学オンライン販売	9784502465215	中央経済社	最新版を指定

参考文献	桜井久勝. 2024.『財務会計講義 第25版』中央経済社. 桜井久勝・須田一幸. 2024.『財務会計・入門〔第17版〕』有斐閣. 田村威文・中條祐介・浅野信博. 2021.『会計学の手法（第2版）』中央経済社.
事前および事後学習の指示（事前学習 30 時間 ・事後学習 30 時間）	事前学習：各授業の該当箇所について教科書を読んでおく。 事後学習：授業で実施した内容について復習して、課題を行う。
キーワード	企業会計、財務会計、制度会計、発生主義会計、財務諸表
備考(管理者用)	（旧：財務諸表論）02～17生読替